

JW300 シリーズ追加説明書

本書は、プログラマブルコントローラ JW300 シリーズ(コントロールユニット、電源ユニット)にて、「RUN ランプ(点灯)、FLT ランプ(消灯)」時に関する追加説明書です。下記マニュアルの関連ページを差し換えてお読み願います。

● JW300 ユーザーズマニュアル(ハード編)

- 4・1 ページに関連 ⇒ 本書 No. 2 / 3 参照
 - ・ RUN ランプと FLT ランプの項に、※印の説明を追記しています。
 - ※ 故障の状況により、異常時に RUN ランプが「点灯」し、FLT ランプが「消灯」する場合があります。
- 8・4 ページに関連 ⇒ 本書 No. 3 / 3 参照
 - ・ LED の状態 (RUN ランプ「点灯」、FLT ランプ「消灯」) の備考に下記を追記しています。
 - プログラミングツール(JW-15PG/300SP 等)と接続時に通信異常となり、電源ユニットの停止出力が「開」の状態 → コントロールユニットの交換

シャープマニファクチャリングシステム株式会社

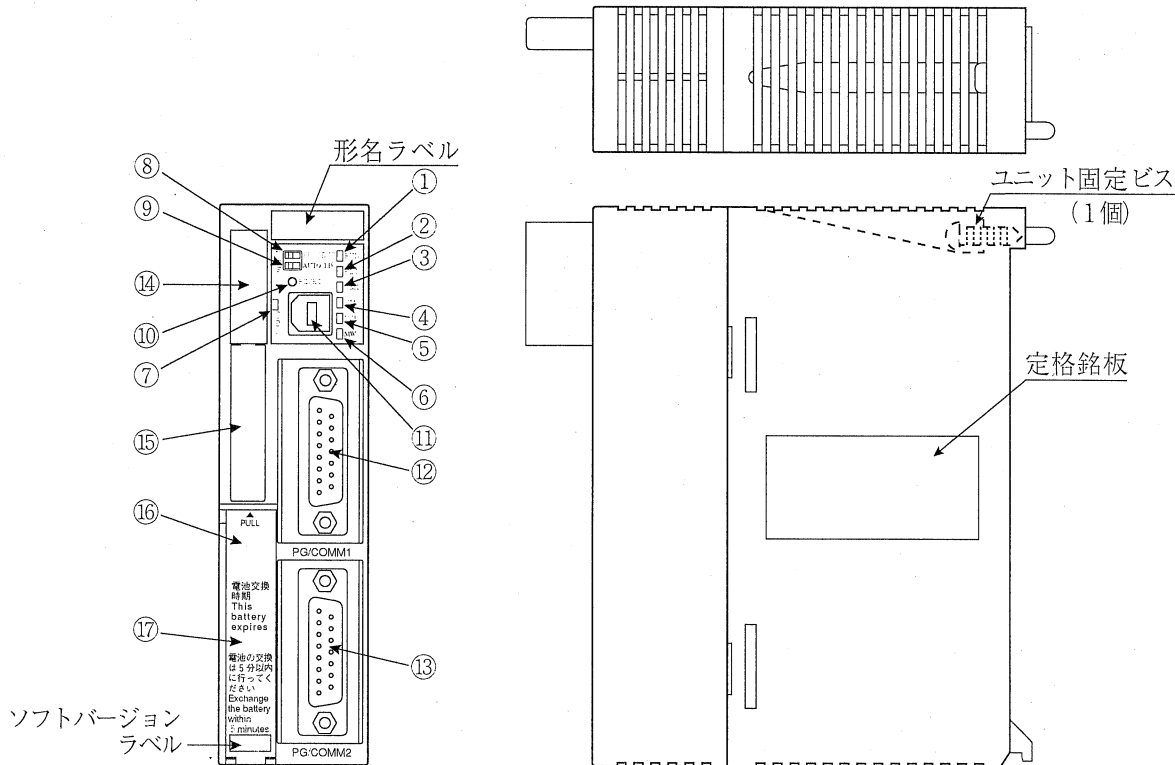
本 社 〒581-8581 大阪府八尾市跡部本町 4 丁目 1 番 33 号

- インターネットホームページによるシャープ制御機器の情報サービス
<http://www.sharp.co.jp/sms/>

2012 年 7 月作成

第 4 章 各部のなまえとはたらき

4-1 コントロールユニット(JW-3**CU)



	なまえ	はたらき
①	RUNランプ (緑)	JW300の運転状態により点灯/点滅/消灯。 ・正常に運転中、点灯。 ※ ・周辺装置を接続してプログラム中(JW300演算停止)、点滅。 ・自己診断により異常を検出時、消灯。(電池異常時、点灯)
②	FLTランプ (赤)	自己診断により異常を検出時、点灯。このときJW300は演算を停止。 ※ (ただし、電池異常時は運転)
③	CMIランプ (黄)	PG/COMM1ポートを使用して、パソコン等と通信時に点灯。 サポートツールを接続して、モニタ状態時に点灯。
④	CM2ランプ (黄)	PG/COMM2ポートを使用して、パソコン等と通信時に点灯。 サポートツールを接続して、モニタ状態時に点灯。 ・JW-311CU/312CUには、CM2ランプはありません。
⑤	USBランプ (黄)	USBポートを使用して通信時、点灯。
⑥	MWランプ (黄)	プログラムメモリを変更時、点滅。 特殊リレー7331のOFF → ONで消灯。
⑦	CARDランプ (緑)	PCカードにアクセス時、点灯。 ・JW-311CU/321CU/331CU/341CUには、CARDランプはありません。
⑧	PROTECTスイッチ	プログラムメモリ、システムメモリへの書込について禁止(ON)、許可(OFF)を設定。
⑨	AUTO LDスイッチ	メモリカードのモードを設定。 ・「ON」に設定すると、電源投入時にメモリカード(コンパクトフラッシュカード)からプログラム等のオートロードを行う。
⑩	RESETスイッチ	ソフトリセット。 ・1スキヤンの演算時間が異常に長くなった場合、運転/停止を繰り返すことがあります。このときにRESETスイッチを押すと、プログラムモードに切り換わります。

追記
↑

※ 故障の状況により、異常時にRUNランプが「点灯」し、FLTランプが「消灯」する場合があります。⇒ 8-2 トラブルシューティング(8・4ページ)参照
↓
次ページへ

8-2 トラブルシューティング

JW300で異常が発生した場合は、電源ユニットのLED(RUN)とコントロールユニットのLED(FLT)を確認(⇒[1])し、その状態により各チェックフロー(⇒[4])に基づきトラブルシューティングしてください。

[1] LEDの状態

RUN (電源ユニット) (コントロールユニット)	FLT (コントロールユニット)	備 考	
消灯 ○	点灯 ●	自己診断で検出可能な異常	→チェックフロー1
消灯 ○	消灯 ○	電源OFF	→チェックフロー2
点滅 ◎	消灯 ○	停止モード	→チェックフロー3
点灯 ●	消灯 ○	自己診断で検出不可の異常 (入力関係)	→チェックフロー4
		自己診断で検出不可の異常 (出力関係)	→チェックフロー5
		プログラミングツール(JW-15PG/300SP等)と接続時に通信異常となり、電源ユニットの停止出力が「開」の状態	→コントロール ユニットの交換
点灯 ●	点灯 ●	その他	→チェックフロー1

追記 ↑

[2] チェックフローの前提条件

当チェックフローは、それまで正常に動作していたものが、突然不具合を起こした場合の対策方法(異常ユニットの交換およびその後の復旧方法)について記載しています。

したがって、下記のような場合は対象外とします。

1. システム立ち上げ時の初期設定(システムメモリ、パラメータ、設定スイッチ等)の誤りによる不具合
2. ノイズ等の影響による一過性の異常による瞬時の不具合(非再現な不具合)
3. ラダープログラム(お客様アプリケーション)の影響による不具合

当チェックフロー等を参考にしても復旧しなかった場合や交換されたユニットの修理を依頼される場合は、お近くの当社サービス部門：シャープドキュメントシステム(株)へご連絡願います。

[3] トラブル時に備えて

1. プログラムメモリ、システムメモリ、パラメータメモリは必ずバックアップを保管しておいてください。
コントロールユニットが異常の場合は、サポートツールにより現行のプログラムメモリ等がセーブできなくなること、また、セーブした内容も正しくないことがありますので、必ず最新のプログラムメモリ、システムメモリのバックアップを保存してください。
ROM運転の場合も、バックアップを保管するようにしてください。
2. サポートツールを手元に用意しておいてください。
ハンディプログラマおよびプログラムのロード/セーブが可能なサポートツールを準備しておいてください。
3. 予備品の用意をしておいてください。
異常発生時に備えて、各ユニットの予備品は必ず用意しておいてください。
4. 各ユニットの「スイッチ設定、システムメモリ設定、I/Oリレー割付の表」を用意しておいてください。
速やかなトラブルシューティングを行うために、各ユニットの「スイッチ設定表、I/Oリレー割付表」を用意しておいてください。

特殊I/Oユニット、オプションユニット等でスイッチの他にパラメータ設定の必要があるユニットは、「パラメータ設定表」も用意しておいてください。